

デフォルマチオネ

Deformazione

No. 1 ~ No. 3

沢田佳孝

数年来のテーマである「光と空間との関係」に加え、空間をつくりだし、光と空間という造形要素を支えている造形素材のうちの1つである石を研究テーマとしてとりあげた。そこで問題となったのは、石材の加工法に関する知識及び加工技術、石を素材として選んだ場合その形態をいかにすべきかという問題、さらに形態と光・空間という要素をどのように関連させてゆくかという問題であった。

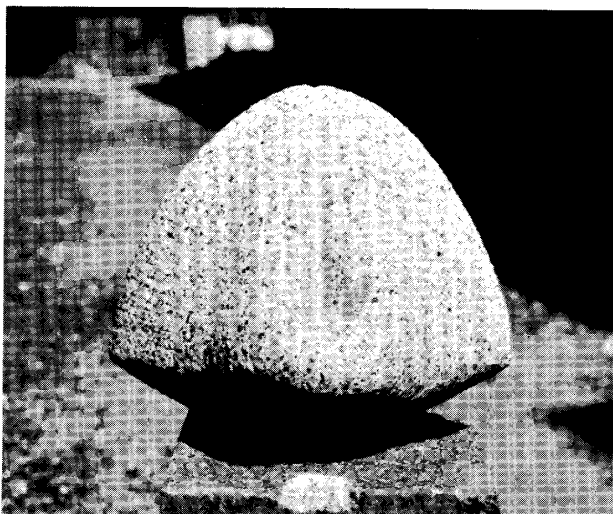
石材の加工法に関する知識、加工技術に関しては、次のようなことがらが明らかになった。石材には多くの種類があり、加工という面からながめた場合、その硬度によって、加工法や使用する道具に多少の相違があるが、一般的には次のような順序に従って加工される。

①切出し ②大割り ③はつり ④むしり仕上げ ⑤ビシャン仕上げ ⑥平刃または両刃による仕上げ ⑦研磨
ただし、どの段階で表面を仕上げるかは、それぞれの形態によって異なり、一様ではない。また上に述べたように硬度により加工法や道具の種類も異ってくるのだが、たとえば、ノミの当て方1つをとってみても、硬度の低い大理石や砂岩では、石の面とノミの刃先の角度を小さく、

硬度の高い花崗岩ではその角度を大きくするという様に異ってくる。今回の場合は、御影石（花崗岩）という最も硬度の高い部類に属する石を選んだため、ノミは主として、タンガロイ製のノミを用いた。

次に形態はいかにあるべきかという問題に関しては、光と空間という要素にあまりとらわれずに、石という素材に適した形態はどのようなものであるかという方向から問題にとりかかり、しだいに光や空間との関連性を強めるという方向で考えることにした。それぞれの形態は、スポンジのパイプやゴムボールなどを使い、それにある力を加え変形させ、その変形によって得られる形態の中から石に適していると思われるものを選び出すことによって決定された。

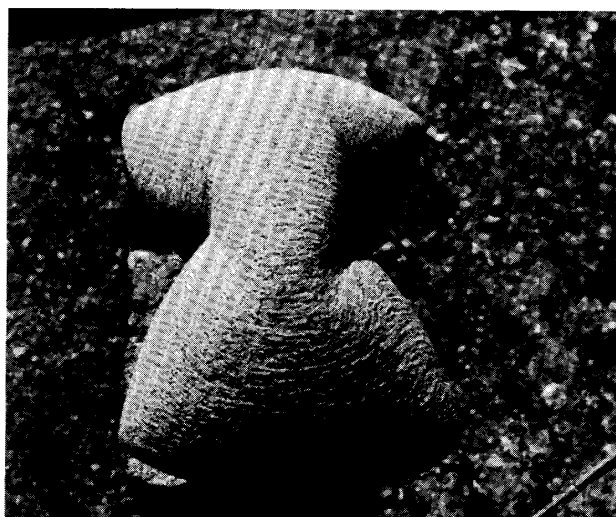
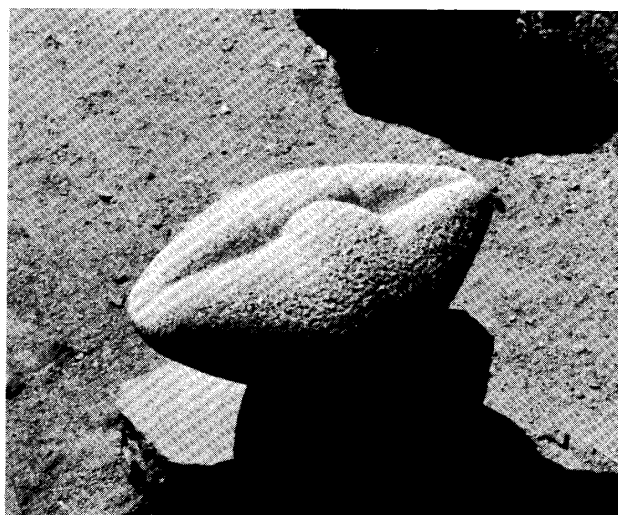
今回の研究により、石の加工法に関する知識及びその加工技術は、ある程度習得できたが、形態をいかにすべきかという問題、さらに形態と光や空間をどのように関連づけてゆくかという問題については、はっきりとした結論を出すまでには至らなかった。そのため、引続いてそれらの問題を研究テーマとしてとりあげてゆきたい。



No. 1 白御影石



No. 2 アフリカ産黒御影石



No. 3 アフリカ産黒御影石

